

H28 年度中期標準化戦略(案)(1/4)

部門名	ICT 活用アプリケーション	担当専門委員会	マルチメディア応用専門委員会	SWG	IPTV-SWG
活動名	IPTV (IP放送、同時再送信、VOD)、デジタルサイネージに関すること				
重点的取組活動と達成目標	<p>① IPTV を中心とした 4K/8K に関する新サービスや拡張サービスにおいて、ITU-T 勧告の必要性の観点からに基づき会員企業にメリットのある国際標準化に向けたアップストリーム活動を継続する。</p> <p>② デジタルサイネージサービスに関する相互運用可能なプラットフォーム実現の観点から、デジタルサイネージコンソーシアムとの連携を推進し、日本発の勧告整備を進める。</p> <p>③ 会員企業の要望に応じてビジネス展開に資するダウンストリームを進める。</p>				
他標準化団体の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・ ITU-T:FG-IPTV の成果文書をベースとし、2008.1 に開始した IPTV-GSI 関連で 100 件の勧告、技術文書等が完成。 ・ GSC にて ITU-T, TTC, ATIS (米国), ETSI (欧州), CCSA (中国) が各国の IPTV 取組体制を報告。韓国も国策として推進。 ・ CJK: 協調メリットを鑑みて、連携を考慮した情報交換を検討。 				
日本における状況 (技術動向、市場動向、標準化の必要性)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ITU-T への対応として総務省および国内仕様団体と連携・協調し、国内の議論の場として本委員会が中心的に活動。 ・ ITU-T 標準化活動に際して、国内仕様団体との整合性を重視し、国内 IPTV およびデジタルサイネージサービスを網羅する概要的勧告について ITU-T へのアップストリームを実施。今後も、①4K/8K に関する新サービスや拡張サービスを中心に、必要な勧告案の樹立に向けた連携強化、②デジタルサイネージの相互運用可能なプラットフォーム実現に向けた勧告整備、③国内メーカー等のビジネスにとって有用な標準のダウンストリーム活動、を継続する。 				
TTC の標準化方針	<p>IPTV サービスの市場の安定的成長と会員団体のそれぞれの国内外のビジネス拡大に寄与するため、国内の IPTV およびデジタルサイネージ仕様と ITU-T を中心とした国際標準化の整合性を確保するとともに、IPTV に関連するサービスの観点からスマート TV や 4K/8K 等の検討を加え ITU-T の勧告体系の整備に貢献する。国内のコンセンサスの場としての活動を維持強化する。国内ビジネスの展開に役立つ「ダウンストリームすべき勧告」についての検討も更に強化する。</p> <p>標準化の主な方向性として</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ITU-T における勧告体系の観点から、必要な勧告案に対するコンセンサスの連携強化し、実効性のあるアップストリーム活動につなげる ②デジタルサイネージの相互運用可能なプラットフォーム実現に向けた積極的な提案 ③ビジネス展開に資するダウンストリーム <p>を中心に活動する。</p> <p>これらの活動を円滑に行うために、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ITU-T 勧告案に対する日本メンバとしての対処方針の確立とそれに基づく ITU-T への対処 2. GSC, APT, CJK 会合 (IPTV 関連) における協調活動の継続 <p>を中心に行う。上記活動を標準化作業に重複が発生しないように推進する上で考慮すべき点は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総務省との連携を引き続き維持 ・ 国内仕様作成団体との協調 <ol style="list-style-type: none"> 3. ダウンストリーム活動の強化 				

活動計画	H28	H29	H30以降	ドキュメント区分	記事
●国際勧告のダウンストリームおよびセミナー開催	▽6	▽2	→	J	
●国際標準化協調活動	□4		→		他 CJK など随時
●アップストリーム	□5 □10 □1		→		IPTV-GSI(2016年度5月、10月、1月(予定))

凡例: ▼ドキュメント制定(標準:J、仕様書:TS、技術レポート:TR、調査報告書:SR)、▽ドキュメント制定検討、■会合時期 □会合予定

H28 年度中期標準化戦略(案)(2/4)

部門名	ICT 活用アプリケーション	担当専門委員会	マルチメディア応用専門委員会	SWG	電子情報健康管理-SWG
活動名	Eヘルスに関すること				
重点的取組活動と達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ITU-T SG16 の Q28(Multimedia framework for e-health applications)へのアップストリーム活動 ・ITU-T 等の e-health 関連勧告のダウンストリーム活動 ・e-health 関連外部団体と連携した e-health 標準の普及促進活動 				
他標準化団体の動向	<p>ITU-T: SG16Q28 研究課題: “Multimedia framework for e-health applications”</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2009 年から本格的な活動を開始。きっかけは旧ソ連諸国からの、e-Health を使った医療費削減を目指した標準化に対する要求(寄与文書) ・ ITU-D や WHO と協力した Workshop を開催 ・ 現在、Continua のガイドラインに加えて、発展途上国向けの e-Health システムフレームワークについての議論を勧告化(Continua、IEEE と連携した作業) 				
日本における状況 (技術動向、市場動向、標準化の必要性)	<p>長寿化が進み、世界中で高齢化が進行している。特に日本は高齢化の進行が大きい。このため、高騰する医療費の抑制のためICTを使った電子医療(e-health)に対する期待が大きい。特に情報交換、遠隔モニタリング分野で標準化と相互運用性向上への期待が大きくなっている。</p>				
TTC の標準化方針	<p>1) 2つの新作業項目(H.MPI-PF, F.MCDC)の勧告化を推進する。 2) ITU-T 等の e-health 関連勧告のダウンストリーム活動として、Continua Guideline の勧告(H.810)のダウンストリームを行う。 3) 外部団体と連携した e-health 標準の普及促進活動を行う。</p>				
活動計画	H28	H29	H30 以降	ドキュメント区分	記事
●国際勧告のダウンストリームおよびセミナー開催	<p>(2~3ヶ月に1回会合実施)</p>			J	Continua Guideline の勧告(H.810)のダウンストリーム
●国際標準化協調活動					SG16 へのアップストリーム活動
●アップストリーム	<p>■ ITU-T 会合の前後</p>				

凡例: ▼ドキュメント制定(標準:J、仕様書:TS、技術レポート:TR、調査報告書:SR)、▽ドキュメント制定検討、■会合時期 □会合予定

H28 年度中期標準化戦略(案)(3/4)

部門名	ICT 活用アプリケーション	担当専門委員会	マルチメディア応用専門委員会	SWG	スマートカー-SWG
活動名	自動車関連の情報通信技術の標準化動向調査、提案				
重点的取組活動と達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ITU-T SG16、C-ITS (Collaboration on ITS Communication Standard) 会合、その他団体における国際標準化動向を調査し、国内標準化・政府への提言を図る。 ・災害時に自動車をコミュニケーションハブとして活用するための情報通信技術のアジアでの標準化を図る。 				
他標準化団体の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・ITS (Intelligent Transport Systems) の標準化は、ISO (TC204/TC22 他)、ITU-T/R、W3C など多岐に亘って行われている。この分野において注目されている重点課題は主に、電気自動車などのエコ車両関連、車車・路車協調システム、自動運転、セキュリティ、WEB と車の連携、災害時の自動車活用等多岐に亘っており、各標準化団体は CITS 会合を通して情報共有・協調を行っている。 ・自動車のリコールや遠隔保守などの実現に向けて、TCG (Trusted Computing Group) という非営利団体 (NPO) が 2014 年秋に仕様案を一般公開・意見募集し、メンバ内外からの意見を反映して、2015 年初頭での仕様確定を目指している。 				
日本における状況 (技術動向、市場動向、標準化の必要性)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本では、ETC や ITS スポットなど全国規模での ITS サービスを実現している。しかし、これらのシステムの国際展開は道路環境の違いや無線方式の差異などにより実現しておらず、今後の課題となっている。 ・2011 年 3 月 11 日の東日本大震災等の災害経験から、自動車を災害時の情報通信のハブとすることへの期待は大きい。そこで、2014 年 8 月に TTC より日本での取り組みをベースにアジア標準を策定することを ASTAP へ提案し、検討がスタートした。 ・日本でのリコールの約 30%はソフトウェアが原因と言われており、遠隔での自動車の保守が必要となっている。そのためには、遠隔での自動車の診断、保守に必要な通信標準の策定が求められている。 				
TTC の標準化方針	<p>[アップストリーム活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CITS/GSC への自動車通信分野の標準化課題の提言等 (テーマは AG-SMART/スマートカーWP の活動成果による) ・ASTAP (EG-BSG、EG-DRMRS)での「災害時の自動車活用した情報ハブ(VHUB)標準化作業 他 <p>[TTC ドキュメント制定]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現時点では予定していないが、ASTAP 等の標準化動向と連携した技術レポートの策定を検討する。 				

活動計画	H28	H29	H30以降	ドキュメント区分	記事
●CITS/GSC ミーティング	■ ■	■ ■	■ ■		国際標準化動向の調査のため、CITS、GSC 会合に参加する。
●ASTAP 標準化活動	■	■ ■ ▼	■ ■ ▼	TR	ASTAP で標準化作業を進める。 具体システムの実現に向けて実証実験を行う。
●TTC セミナ	■	■	■		スマートカーSWG 活動について、内容を公開すべく1年に1回程度実施する。

H28 年度中期標準化戦略(案)(4/4)

部門名	ICT 活用アプリケーション	担当専門委員会	マルチメディア応用専門委員会	SWG	アクセシビリティ-SWG
活動名	マルチメディアシステムへのアクセシビリティに関すること				
重点的取組活動と達成目標	総務省消防庁にて普及展開を図っていくための国内標準仕様書の作成と、国際標準化活動を行う予定。 1) マルチメディア緊急通報システム(Net119)の標準 I/F の検討・策定 2) アジア標準化の策定可能性の検討 3) ITU-T SG16 Q26(Accessibility)への対応				
他標準化団体の動向	ITU-T: SG16Q26 研究課題: “Accessibility to multimedia systems and services”としてマルチメディアシステムに係るアクセシビリティの標準化を進めている。				
日本における状況 (技術動向、市場動向、標準化の必要性)	2014 年の「障害者の権利に関する条約」批准と 2016 年 4 月 1 日の「障害者差別解消法」施行、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催を見据えた情報アクセシビリティ関連の標準化への取組強化が必要				
TTC の標準化方針	総務省消防庁にて普及展開を図っていくための国内標準仕様書の作成と、国際標準化活動を行う予定。 1) マルチメディア緊急通報システム(Net119)の標準 I/F の検討・策定: 本格導入のための国内標準仕様書の作成を行う。 2) アジア標準化の策定可能性の検討 3) 国際標準化(ITU-T SG16 Q26(Accessibility))への対応				
活動計画	H28	H29	H30 以降	ドキュメント区分	記事
●調査・研究	■ (1~2ヶ月に1回会合実施)			J	・ 総務省消防庁主催「119 番通報の多様化に関する検討会」で提示された技術面の課題に対する具体的解決手段および技術的条件書への記載内容の提案
●標準化活動	■				
●アップストリーム	■ ITU-T 会合の前後				

凡例: ▼ドキュメント制定(標準:J、仕様書:TS、技術レポート:TR、調査報告書:SR)、▽ドキュメント制定検討、■会合時期 □会合予定